

『女大学宝箱』解説

C・アンドリュース・ガーストル

本書の作者は貝原益軒（かいばらえきけん）（寛永七〜正徳四年／一六三〇—一七一四）と記載されているが、実際は大坂の板元柏原屋清右衛門かしわらやせいもんが益軒の書物を基に編集したと考えられている。享保元年（一七一六）に初めて出版されてから十九世紀末まで、本書はおよそ二十年に一度の頻度で十一回も再版され続けた。本書は最も影響力のある女性向けの往来物の教訓書と考えられている。英国の研究者であるバジル・ホール・チェンバレン（Basil Hall Chamberlain, 1850-1935）は、海外における日本の伝統理解を促す掬り所として、一八七八年に本文の一部を翻訳した。

『女大学』の核は、厳格な儒教の影響を強く受けた女性向けの教訓的文章であり、「総じて婦人の道は人に従ふにあり」と両親と義理の両親に従い、他者に奉仕するために自己を抑制することを提唱している。このような本文に並べられている図では、畑を耕す女性から籠を編み、裁縫をする女性まで様々な職業の女性が描かれている。なかには海女や売色、馬士までも含まれている。他の章では、『源氏物語』や著名な古典作品が紹介されている。そこには、妊娠や料理、育児への指南や中国の歴史に関する章まである。本書全体をながめれば、当時の女性が自分自身の人生にどのような見通しを持っていたのかを知ることができる。

『女大学』を読めば、当時の女性たちが結婚した家族とその家の存続

に対し自分の人生を捧げることを期待されていたことがわかる。性的な事柄やその悦びについて、本書はそれほど言及していない。女性は貞節を保ち、他の男性やこの世のたのしみから距離を置くことを期待されていたため、それらが語られるのは性欲の文脈においてのみである。性交もまたごく簡単に、妊娠に関連した部分で述べられる。「世継草」の章では、率直に性のたのしみに対して指導する。曰く「色欲ふければ胎たをなさず、淫乱いんらんなれば孕はらず（もしあなたが色欲が強いならば、妊娠することは難しいだろう。もしあなたが淫乱であるのなら、やはり妊娠することはできない。性交は出産のためのものであり、悦び・たのしみのためのものではない）」と。『女大楽宝開』はこの本をパロディーにした。

（石上阿希訳）

注

- （1） Basil Hall Chamberlain, "Educational Literature for Japanese Women," *Journal of the Asiatic Society of Great Britain*, vol. 10, part 3, 1878, pp. 332-40. また現在でも入手可能なチェンバレンの著作『日本事物誌 (Things Japanese)』（一八九〇年刊）にも含まれている。

参考文献

- 田中ちた子、田中初夫編『家政学文献集成 続編江戸期1』東京：渡辺書店、一九七一年。
石川松太郎『女大学集』東京：平凡社、一九七七年。